社会福祉法人八ヶ岳名水会　情報紙

平成２７年１０月発行

にじ 虹いろ

No.１４

リレー題字：坂本美雄さん　絵：斎藤飛鳥さん、遠藤尉司さん

Line up

- 入所施設の今とこれから
- タイ王国視察研修報告
- 女取の泉
- その他

『入所施設の今』と『これから』

星の里副管理者
長田　和也

平成五年四月開所から二十二年に渡り障害を持たれた方の生活を支えてきた星の里ですが、時代の流れとともにその役割に変革を求められています。

法人そのものは新しい流れを取り入れ、形を変えながら地域福祉を進めているにもかかわらず、原点である星の里は入所という枠の中で「老舗」化しているように思えます。

そこで、現在の星の里の課題を整理し、今まで積み上げてきた経験を生かしたうえで、新たな取り組みを行う必要があります。今後は次の課題を重点に置き、進めていくことを確認し合い、歩みだしました。

1　高齢化
2　個別化
3　環境整備

一点目の高齢化は、多くの入所施設が抱える緊急課題です。星の里でも二十年前にはそれほど必要としなかった手すりを廊下、トイレ、ふろ場等あちこちに取り付けました。車いす利用者が増え、入浴用リフトが必要になり設置いたしました。それに伴い、介護技

術、たん吸引など医療との連携、終末期の看取り等着手しなければならない問題も出てきています。

二点目の個別化は利用者一人ひとりの特性や状態に応じたニーズに対応し、声なき声をいかに受け止め、生活を組み立てていくのかということと、入所施設という集団生活の中で、いかに個人の尊厳を守り実りある人生を支えて行けるのかということが先々を見据えたうえで課題となります。

そして三点目に環境整備の見直しも急務です。環境を物理的に改善するため、ユニット化を進め、障害特性や状態に合った生活ができるよう支援を行っていく必要があります。

支援員の資質の向上も当然のこととなります。「介護すること」と「支援すること」の違いを埋めるための研修を行い高齢化に対応できる知識と技術を身に付けるとともに、日々の支援の中で利用者個人のニーズをきちんと拾えるようにすることが大事です。その為に情報を共有するケース会議を行っていきます。そしてそれが、利用者一人ひとりに向き合う事に繋がります。今後は、星の里としてこうしたことに重点を置いて実施していきます。

日中活動の見直しでは、高齢化に対応するため、活動内容・活動場所を見直し、星の里の特色を出した活動を選定します。既に春の陽とは活動を共にしていますが、菜の花、のはら樂団など、他事業所とも連携し、活動の共有と拡大をしていきます。

環境面では、前記したユニット化と活動の場の整備を行います。さらに短期入所の部屋を整備し、困難な現状を整理して地域のニーズにも応えられる態勢を作ります。

そして、その先には新たなグループホーム「太陽」の建設を行い、入所定員削減と個室化を順次行っていくことにより、地域の中で今まで以上に、連携をとることができる施設へと動いていきます。

「利用者が真ん中にいる、僕らは利用者の思いを実現するために色々な人に力を寄せてもらい、一緒に希望を叶える」そのために星の里は歩んでいきます。

今回のタイ王国研修と視察したことについて

社会福祉法人　八ヶ岳名水会
支援センター陽だまり
倉園　憲

十八年前のわたしは政治などには興味もなく、将来など楽観的に考えているただの留年生。情報源も新聞やテレビ・雑誌くらいのもの、ほとんど、そういうものに興味がなかった。

タイに来た時も世間をまるで見てなかった。今回研修に参加してよく見て回れた。

ムーンバン・カオディーン村の人々がスマートフォンやタブレットを持ち歩いていたことに驚いた。これはつまり、インターネットというものが普及しているということ。情報が瞬く間に、村に伝わって来る。しかし、持っているのは一部の人間に限られていた。そして、村は整備され新しく家を建て直して全体的にさっぱりとなっていた。

そして、ホームステイ先の立派なお屋敷。こんなにも格差ができているのはなぜか？

以前はもっと混沌としていて、それでいて、もっとみんな生き生きとしていたのだろう。

三十二年前、わたしは両親の仕事の為、奄美大島で三年間暮らしていた。今回の村の生活環境はあの頃の奄美に似ていた。格差が集落にでき人々の中に羨望が芽生え、外から来た人々や障碍のある人間は村八分にされていた。今回は村長の客人ということもあったため、過剰とも思える歓迎を受けることになったがそうでなければどうなっていたかは不明だ。

昔と違うことに現在はネットにより、世界の情報を子どもたちも見ることができる。政治についての動向もいち早く届くために、どの勢力に加担すればより良くなるかなどもわかりやすい。

ホームステイ先の方は元軍人で今は小学校の先生をしていた。軍事政権に替わり、彼らの生活は安定したものになっていたと思われる。政情が不安定な時期なので今後、どういう社会になっていくのだろう。

情報社会により、農業従事者は減り、若者は都市部に夢見て故郷を離れる。この現状が、老人デイケアセンターにつながると思う。

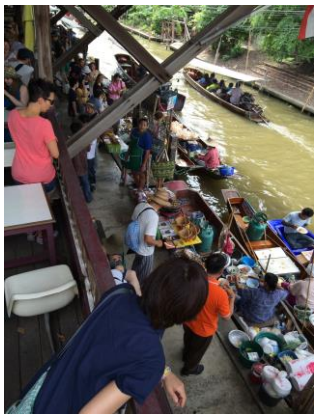
現在の日本もそうだが、出身地から離れる、ということが昔は少なかった。だから地域力みたいなものが強く、中で物事を解決する、という事が可能だったのではないだろうか？

良し悪しはあるが。情報の流入が身近になりＳＮＳ等の発達により、他の地域の人間とも簡単に情報がやり取りできるようになり、隣の芝生は碧い。というふうに人口の流出が起こっているようにも思えた。

それに引き替え老人は簡単に村を去れない。これまでの地域力なら老人の世話はできた。しかし、現況ではできなくなってしまった。婦人会の方も高

齢化していき、独居老人や、村内に散居している方々の見回りも難しい。いざという時の対応も遅れるかもしれない。

合理的に考えるならば、一か所に集めた方が少人数で無理せずに面倒を見ることができる。こう考えると、デイケアセンターを村長宅の近くに新設するということが、良策であり、理にかなったことだと思った。



子どもたちと、学校での交流があったが、なぜわざわざ、制服を着て学校集合なのか？とも思ったが、こちらも団体での研修なので、みんなと遊んだ。こんなに子どもがいたのか、と思うほどの人数だった。みんなそれぞれに、こちらが用意してきたもので遊んでくれた。

学校では英語も教えているということだった。日本では英語を話せなくても生活できるが、彼らにとっては、これから生きていくうえで英語は必要不可欠になっていくのだろうと思う。

都市部で生活するには母国語だけだとやってはいけないと、バンコクで思った。

普通の生活では、賃金はそんなには稼げない。観光客が集まるところの方が、やはり賃金がいい。それならば、より良い暮らしのために英語は学んでおいて損はない。小さい子達はさすがに話せなかったが、高学年の子たちは日本人と同程度には話せていた気がする。

子どもたちはどこに行っても同じで活き活きとしていた。そこは安心できた。しかし、子どもたちにも格差があり、あの場ではなかったが、差別やいじめもあるのだと思う。子どもたちが村内を案内してくれたが、通るルートが決まっていたらしく、見られないところもあった。

普通の家に住んでいる子と高床式の昔からの家に住んでいる子といたが日本もそんなに変わらないのだと再認識した。それはすなわち、格差は着々と拡大しているということだと思った。豊かな暮らしというイメージが日本にはあるが、こうして他国と比較することで、日本という国の問題点が、良く見えてきたように思える。

バンコクは十八年前とは全く違っていました。

以前は高度成長期のはじめのころでしたが、現在はだいぶ進み、やはり格差が田舎よりもより大きいもののように思えました。スラムの拡大も高度成長の余波だと思いました。

今回この研修に参加することができて、大変勉強になりました。こちらでももっと現実を見て、仕事に活かそうと思いました。

八ヶ岳名水会法人内研修

去る七月二十九日に日野春學舎会議室にて、全国手をつなぐ育成会連合会統括田中正博氏を講師に「障害者総合支援法施行後三年を目途とした見直し～提案と課題～」と題して八ヶ岳名水会法人内研修が行われました。

田中氏は講演の中で「各ライフステージに応じた過不足のない支援のもと、安心して暮らせることを願って共生社会の実現を求めている。これからは、障害のあるなしにかかわらず、多様な価値観のもと本人らしい暮らし方で、地域で暮らしていくことがより一層進められる時代が始まる。超高齢社会を迎え、高齢障害者が大幅に増加していく中で、地域の住まいの場を国の整備だけではなく、既存の資源と地域の繋がり活性化も視野に入れての模索が必要ではないか。」と語られました。研修に参加した職員にそれぞれの意見や感想を報告していただきます。

就労支援ワーカー　坂本　誠

障害者総合支援法施行後三年を目途とした見直しにおける就労支援の考え方は、現行の就労移行支援を、より個々の就労ニーズに沿った二段階に分けたサービス提供に分類することを提案している。しかし、サービスの形を整えるだけでは現行の就労支援サービスである就労移行や就労継続Ａ・Ｂ型の反省を生かせない。現場職員の支援技術や知識の向上、ひいては法人そのものの就労支援に対する考え方や計画的な人材育成など、ソフト面の充実が伴わなければ、結局は絵に描いた餅で終わってしまう。支援に携わる関係者一人ひとりがどれだけ真剣に向き合うかが今後成否を分けると思う。

春の陽支援員　境井　卓馬

私は現在就労移行支援員として働かせていただいています。二年前から就労系の支援に携わらせていただき、普段は就職を目指した訓練や勉強、ハローワークや企業での就職活動支援、その後のフォローアップ支援をメインに動いています。今年度からは就労系リーダーの立場もいただき、就労移行と就労継続Ｂも担当しています。そうした就労支援についてですが、まだまだプログラムの設定不足で、日々の訓練や活動が根拠を基に組めていないのが現状です。

田中先生の講演を聴いて、活動拠点の設置・就労プログラムの再設定・利用目的や目標に応じた根拠のある支援計画の作成を総合して、利用者の訓練や活動のコンテンツをよりわかりやすく充実させられるように進めていくべきだと考えました。

星の里サービス管理責任者　守屋　亮

星の里においても障害者の意思決定支援、成年後見制度の利用、高齢の障害者に対する支援の在り方など、いくつか共通の課題が話に挙がっています。その中でも高齢の障害者に対する支援は直近の課題です。

六十五歳を過ぎて要介護状態となった方が障害福祉サービスだけでは充分な支援が受けられず、介護保険サービスも必要とするとき、円滑な切り替えができるような準備をしておく必要があること。とりわけ、市町村の包括支援センターと基幹相談支援センターの連携はキーポイントになると思いました。また、高齢者分野の知識やスキルの向上、支援ノウハウなどの研修も今後意識的に取り組んで行かなければならないとお話を聞いていて思いました。

星の里支援員　千野　貴史

現在日本は、高齢化が大きな社会問題になっている。それは、障害者も例外ではない。田中先生は、高齢者についてのスキルが乏しい障害者分野の問題、またその逆で障害者についてのスキルが乏しい高齢者分野の問題について体系的な研修の必要性を説いていた。短い期間であるが、高齢者分野の仕事に身をおいていたので、私も同意見である。今までは、スペシャリストになる事で我々は、仕事をまっとうしてきた。しかし、これからは、スペシャリストであると同時にジェネラリストとしての観点が必要であると考えている。人は、誰しも年をとり、老化し、何らかの不自由（障害）を持つ。その時、私達は一つの専門性でその人を支えていけるのだろうか。その人を高齢者、障害者という括りにおいていて支えることができるのだろうか。障害者は必ずしも高齢者ではないが、高齢者はどうなのだろうか。

私は犬を飼っている。目も耳も足もすっかり弱ってしまった老犬「もも」。その犬が先日車に轢かれてしまった。そのとき、ふと、私の犬は老犬なのか障害犬なのかと思った。

私の「もも」は、老犬、障害犬である前に私の大切な家族なのだと田中先生の講演を聴いて私は思った。

私達、陽だまり世話人衆！

今回は、日ごろグループホームを中心に利用者の支援をしている生活支援センター陽だまり所属の世話人さん達の紹介です。言わば縁の下の力持ち的存在の皆さんです。どうぞよろしくお願い致します。

八ヶ岳名水会との出会いは六年前。たまに寄る直売所の「稲刈り」の案内を見て参加したことがきっかけでした。利用者の方も参加する稲刈りの風景は独特な和み感がありました。その後仕事を希望して以来韮崎のグループホームSOLで週三日食事作りをやっています。二年位は利用者さんと馴染むのが精いっぱいでしたが今ではSOLの古株の世話人となりました。自分で考え、皆と話し合って問題を解決していく力をつけていくのが自立の第一歩と考え、その手助けになれればなぁと思っています。また利用者さん同士の摩擦は各自の長所短所をわかって「こうあるべき」という考えにとらわれすぎないよう伝えています。利用者さんにとって物忘れがひどくからかいやすい、でも話がしやすい存在でいられればと思います。

楠原　美鶴

以前から福祉に関わりたいと思っていました。

きっかけは生活クラブ（生協）で八ヶ岳名水会の見学に参加した時に、こういう所で私に出来ること、マクロビオティック（穀物採食）とフラワーデザインを活かして何か出来たらと思ったことでした。

最初は果たして私に務まるかと不安でしたが、多くのことを学ばせていただき、あっという間に四年目になりました。

これからも与えられた範囲の中でマクロビオティックを取り入れて、利用者の方々のお役に立てたらと思っています。

まだまだ手探りの状態で皆様にご迷惑をおかけしますが、これからもどうぞよろしくお願いいたします。

村上　正美

女取の泉

プレステージにお世話になり一年二ヶ月になります。友人の紹介で食事を提供する仕事と聞き、料理は経験がありましたので勤めさせていただくことになりました。しかし入ってみると支援する運営事業で、利用者さん一人一人の個性や特徴を尊重しながら食事の手助けをする仕事だとお聞きしました。料理は何が喜ばれるか、量的なこと、誰が何を嫌いなのか、料理を作るだけでなく、健康状態、心の悩み等があれば少しでも力添え出来るだろうか・・・。考えるだけで不安で心が押しつぶされそうな毎日でした。

日々奮闘しているうちに一ヶ月経ち、6ヶ月が経ち、もう一年二ヶ月が経ちました。

今は利用者さんに家庭的な雰囲気の中で楽しみながら食事が出来るよう頑張りたいと思っています。

野中　りつ子

突然ですが・・
ここで新しく陽だまりに異動してきた職員の紹介です！

三月下旬・・・前職場でヒヤリングをしている際に小泉晃彦さんから突然異動の話をされる。

突然のお話に驚き、戸惑いもありましたが異動することを決めました。

支援センター陽だまりに異動になる前は二年間NPO法人杜の風キッズクラブで名水会からの出向職員として勤めていました。

そして今年の四月から支援センター陽だまりに異動になりました佐野元紀です。

陽だまりに勤めて半年が経ちました。まだまだ未熟ですが、利用者さんのためによりよい支援ができるように、日々精進していきたいです。よろしくお願いします。

佐野　元紀

この欄は、毎回、八ヶ岳名水会で働く職員やボランティアの方が、交替で書き綴るコーナーです。女取の泉は、長坂小荒間の森の中にある美しい泉です。

ボランティア通信

星の里ボランティア活動によせて

今年で二十三回目を数える星の里様への奉仕作業。今年も六月の定例会に於いて、二十四名の委員に奉仕作業の説明と協力をお願いしました。坂本施設長様と打ち合わせを行い、天気を心配しながら当日を迎えました。昨日迄の雨も上がり暑さを感じる程の晴天に恵まれ全員参加の中で始まりました。順調に草取り、草刈り、垣根の剪定を行い、各委員の顔は汗まみれで充実した作業の達成感に満ちあふれておりました。

私ども民生委員児童委員の任を受けて今年で二回目の奉仕作業ですが、利用者、職員の皆様方への良い環境作りと明日への希望が湧く活気ある星の里様を願いながら行っております。普段はなかなか体験できないボランティア活動に、各委員はそれぞれの思いの中で教訓を得たことと思います。先輩の民生委員から受け継がれてきた奉仕作業が尊く重く輝き、私も一民生委員として大切な人生の一場面だと思っております。これからも各委員と共に奉仕作業の意義を感じながら続けて参りたいと思います。

小淵沢地区民生委員児童委員協議会
会長　中沢　朝征

田植えに参加して

春の陽の農場を訪れる度に感じていることがあります。辺りに吹く風は透明な光に包まれて、まさにそこは別天地を思わせます。

今日はここでの田植えの日、身仕事を済ませ、いよいよスタッフの方の指導に従って田んぼの中へ。初心者の私などは水の引かれた田の中に入るだけでも至難の業なのに、慣れた方はすいすいと田の中を歩き廻り、巧みな手さばきで植えていきます。利用者の皆さんも加わり、集まったボランティアの方々も心を合わせて揃って植えていく姿は見事なものでした。心地よい汗を拭った後に頂いたランチがまたおいしかったこと。接待して下さった利用者の皆さん、スタッフの方々の笑顔こそ最上のおもてなし。初めて知り合ったボランティアの方との会話も楽しくはずみ、「稲刈りもまたね。」との約束を交わし、満足のうちに帰途に着きました。

甲府カトリック教会
木村　正子

2015年度ボランティア活動　７月10日(金) 午前中　小淵沢民生委員児童委員協議会

初夏の暑い陽ざしの中、恒例になっている“星の里 ボランティア活動”を実施しました。今年は生垣の剪定と園内の草取り作業を中心に行いました。

里っこ山っこやさいまつり

「里山」と「保育（教育）・福祉・自然とのふれあい」とテーマに「里っこ山っこやさいまつり＋日野春ムービーVol.3」（以下「やさいまつり」と省略）が、社団法人里くらと八ヶ岳名水会の共催で、平成二十七年八月二十九日に開催されました。

昨年、里くら主催で「たね」をテーマに野菜や農業と福祉にかかわる種が蒔かれた「たねとやさいまつり」。今年は、「子育て」をテーマに、（子供一人ひとりが種とすれば）昨年蒔いた豆（種）が育って芽吹くようなまつりとなりました。「まめてん～里山アート～」（当法人や近隣他施設や団体との合同アート展）第二弾を同時開催して、出店やワークショップや演奏にアート・音楽・展示が加わり、多種多様な内容が盛り込まれた大きな祭りになりました。二百台分の駐車スペースはあっという間に埋まり、車の出入りも多々あり、昨年の三倍近く集客があったようです。八ヶ岳名水会が旧日野春小学校を借りるとき、以前この校舎が地域の人たちの拠り所だったように、誰もが気軽に活用し、交流し、学べる場にしたいという思いがあったと聞いています。今回、それが実現できたような気がします。「こどもこそ未来」という幼児教育にかかわる映画を上映した影響と、夏休み前に北杜市内全保育園・全幼稚園・全小学校校舎に宣伝した効果があり、当日は子供連れの親子がいっぱい来ました。いつもは静かな廊下に、スタンプラリーの場所探しに夢中で駆け回わる子供たちの声と足音が聞こえていました。体育館では、上映会とトークショー、屋内で二十店舗ほど、屋外で十店舗ほどの出店で、手作りのお料理や地元産の野菜や手芸品を楽しむ人たちでにぎわいました。舞台では、太鼓の音が響き、稚児の舞いが舞われ、大正琴が流れ、音楽室では、ジャンベや打楽器をつかってみんなが参加できるドラムサークルや元気いっぱいな音楽家たちのライブの音が、校舎中に鳴り響き渡りました。校舎全体に「まめてん」の作品が飾られ、玄関から廊下や階段、二階の犬塚勉のまなざしギャラリーの教室や音楽室などの隅々まで、ありのままの豊かな表現がいっぱいに。展示も一種類に偏らず、保育園の絵、施設で作った作品や手芸品、ひきこもりに

ついてのインスタレーションなど、様々でした。私は、「学校にみんなが戻ってきたあ！」と、校舎が喜んでいたように感じました。

各教室では、そこを活用している各団体が里山にかかわるワークショップ（藁結い・繭玉づくり・和綿の糸紡ぎ・ほうとうづくり・楽器づくりなど）を行い、障害あるなし関係なく老若男女がともに手づくりを楽しむ姿があちこちで見られました。観る、話す、考える、実験する、つくる、学ぶ、奏でる、歌う、聴く、楽しむ、食べる、交わる、昔小学校でやっていたことが蘇った文化祭。きっと、いろんな人が様々な出会いと発見と交流を楽しみ、楽しい思い出を作っていったことでしょう。

大成功した楽しみの土台には、協力してくださった地元の方々、つながりを大切に育んだ先輩たち、準備した実行委員会の人たち、ボランティアや支えてくださった人たちがいます。祭りとはひとりひとりの力やつながりや個性が合わさってつくられるものだと実感しました。何はともあれ、人あっての祭り！地元の方をはじめ、ご協力者の皆様、来場した皆様、出店・出展・出演された方々、スタッフの方々に感謝の気持ちでいっぱいです。この場を借りてお礼を申し上げます。ありがとうございました！

ともにつくることをきっかけに、普段は接触のない人たちと出会い、知り合えたこと、そして、祭りを通して、この校舎が誰もが近づきやすい場所にできたこと、そこで内外の人が出会い、自然な形で交流を持てたこと（一緒に食べたり、楽器をつくったり、音楽を奏でたりなど）は有意義でした。しかしながら、仕事をしながらのイベントづくりは、仕事の合間をぬっての準備や打ち合わせ、予想外の来客にてんやわんやの対応など、スタッフ側に大変な面もありました。今後は、スタッフを担う人も、半日仕事で半日楽しむ時間を持てるようなスタイルで、みんなが参加して楽しめるイベントをつくりたいです。そして、そこで生み出される楽しいエネルギーが人を呼び、ここが誰もが気軽に立ち寄れる親しみのある場になったらと願っております。

文：アート企画部門　**西川　直子**

写真：成島撮影／やさいまつりフェイスブックページより一部抜粋

私たち新人です！

平成二十七年度
新卒採用職員紹介

利用者が親しみやすい職員になれるよう、まずは、目の前のことからコツコツと、日々をしっかりこなしていきたいと思います。まだまだ至らない部分がありますが、ご指導のほどよろしくお願いいたします。

星の里　遠山　萌

利用者の心に寄り添えるよう、日々の勤務の中で先輩方の言動をしっかり見て、聴いて、模倣ばかりにならないよう自分自身試行錯誤しながらやるべきことをしっかり行なって行きたいと考えております。至らない点も多々あるかとは思いますが、ご指導のほどよろしくお願いいたします。

星の里　渡邊　美輝

私は利用者の小さな変化にも気づける職員になりたいです。その為に、日々の利用者一人一人とのかかわりを丁寧に行いたいと思います。精一杯勤めさせて頂きますので、どうぞよろしくお願いいたします。

星の里　城之園　暖明

「あきらめずに頑張っている。」という言葉を自分に対して言い聞かせるのではなく、相手に贈るエールとして使っていきたい。そして、何事にも、学び、考え、行動をし、結果を出す、そんな支援員に、私はなっていきたいと思います。よろしくお願いいたします。

春の陽　高柳　優

福祉の職員大募集！

障がい者福祉に関わるいろいろな種類のお仕事です。

子育て中のママさんや、子育て一段落のママさん、退職後の方・・・

もちろんフルに働きたい方、福祉のお仕事に興味のあるすべての方へ

募集人数　・若干名

勤務地　・北杜市、韮崎市（全域）

勤務時間

①　8:30～17:30迄の間（何時間でも応相談）

②　6:30～9:30／16:00～21:00（応相談）

待遇　・正規職員（法人規定による）

時給　・パート 800円～（業務内容により 850円から）

・訪問支援員（ホームヘルパー）1，000円～

資格　・普通免許要　・ヘルパー2級（歓迎）

見学や実習もして頂けます！
とにかくお気軽にお電話をください！

社会福祉法人　八ヶ岳名水会

〒408－0025　北杜市長坂町長坂下条 1237－3（旧日野春小学校）

☎　0551－32－0035　事務局（志村・小澤）まで

ありがとうございました！

○題字を書いてくださった方
後援会員　坂本商事　社長
坂本　美雄　様

○表紙絵を描いてくださった方
グループホーム利用者
齋藤　飛鳥　様
遠藤　尉司　様

素敵な字と絵をありがとうございました！

豆腐まつり開催！

二〇一五年十一月七日（土）十一時～十五時三十分まで、豆の花（長坂）にて豆腐まつりを行います！

当日は、ふるまい豆腐や利用者さんたちも一緒になって楽しめる音楽会も行われる予定です。皆さん、お誘いあわせのうえ遊びにきてください。

問い合わせ連絡先
０５５１－３２－８２３４
八ケ岳名水会（豆の花　森下）

編集後記

パブロ・ピカソ。誰もが認める天才芸術家である。そんなピカソも幼少期は、指導されることを好まず、先生から体罰を受けたことも度々あったそうだ。その時の様子をピカソはこう伝えている。「問題児として真っ白な壁に囲まれたベンチが一つあるだけの体罰室によく送られたが、そこが大好きだった。スケッチブックを持っていって延々と絵を描いた。手を止めることなく、そこにずっといることができた。」この話を知った時、私は「人の居場所の大切さ」を感じた。どんな人でも居心地のいい場所で過ごすことを望んでいるはずである。そこを提供するのが私たちの仕事ではないか。障がいのある人たちの中には行動上に様々な課題が現れる時がある。そのような時に私たち支援者はつい「困った」と思いがちである。その行動が激しいものであったり、周囲に大きな影響を与えるものであればなおさらである。しかし、実は支援者以上に困っているのは本人なのではないか。障がいが現れている人は「困った人」ではなく「困っている人」だということを肝に銘じ、日々支援に取り組むべきではないだろうか。

（錦）

社会福祉法人　八ヶ岳名水会

〒408-0031 山梨県北杜市長坂町小荒間 1095-7
TEL　0551-32-7355
FAX　0551-32-7350
E-mail　hoshinosato@coast.ocn.ne.jp
URL　http://www4.ocn.ne.jp/~hosi7355/

広報委員会スタッフ

錦見祐治（陽だまり）　廣瀬政光　小池翔　穂坂雄太　浅利美衣（以上菜の花）
伏見祐司　相吉謙輔（以上星の里）　阿部通洋　村瀬成美　高柳優（以上春の陽）　望月杏沙美（ぽーら）　立川瞳（相談支援）　坂本むつみ（以上事務局）